

平成24年度

5 自然がもたらす恩恵を持続的に享受できる健全な自然生態系の確保
5-4 人と自然とのふれあいの確保

08 鳥取砂丘保全事業(養浜)

施策

1 事業の目的

貴重な観光資源である『鳥取砂丘』は、平成17年以前においては冬季風浪や砂の供給源の減少等により浜幅が減少していること(侵食)が確認されたことから、砂丘保全のための継続的なサンドリサイクルに取り組んでいるところ。

2 事業の内容

毎年、鳥取港航路泊地で浚渫した砂を、「鳥取県沿岸の総合的に土砂管理ガイドライン」に基づき、鳥取砂丘沖に投入(サンドリサイクル)し、砂丘の侵食を防止する。

3 事業の現状及び課題

現状において砂丘の侵食防止効果が確認されており、今後も継続的に効果検証を行っていく必要があるが、多額の事業費(毎年 50,000(千円))がかかることから、予算確保が課題となる。
なお、24年度においては、平成23年に発生した台風12号の影響により航路に堆積した土砂を取除くため、事業費を110,000千円としている。



実績

44,820m³ 108,398千円

連絡先

県土総務部 空港港湾課 港湾担当 電話0857-26-7312

参考URL

鳥取県空港港湾課のwebサイトより

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=28145>

平成24年度

- 5 自然がもたらす恩恵を持続的に享受できる健全な自然生態系の確保
5-4 人と自然とのふれあいの確保

09 山陰海岸世界ジオパークネットワークの推進

施策

1 事業の目的

平成22年10月に世界ジオパークに加盟した山陰海岸ジオパークの観光活用や教育活用等を山陰海岸ジオパーク推進協議会及び関係市町村等と連携しながら推進する。

2 事業の内容

- (1) 各種取り組みを支援する事業
産業面での活用、受け入れ態勢の整備、普及啓発、眺望地点等の景観改善に要する経費など山陰海岸ジオパークに関する様々な取組に対し補助金を交付する。
- (2) 広域観光に関する事業
 - ア 女子旅モニターツアー
女性ブロガー等による個人旅行モニター旅行の実施及び旅行レポート等による情報発信を行う。
 - イ 隠岐ジオパークとの連携
両ジオパーク共同でのイベント実施や旅行会社へのツアー造成の働きかけを行う。
 - ウ 県外旅行会社職員の現地招致
 - エ ジオウオーク補助金
エリア全域で実施されるウオーキング大会のうち、県内で実施されるものへ補助金を交付する。
 - (3) もてなしの向上に関する事業
 - ア 電動アシスト自転車管理委託
エリア内のアクセス向上を図る電動アシスト自転車の貸し出しを岩美町観光協会に委託する。
 - イ 外国人対応職員(英語)2名の配置(砂丘事務所、山陰海岸学習館)
 - (4) 県内外でのPR事業
 - ア 鳥取空港の電照看板、ラッピングバスや各種媒体を活用して山陰海岸ジオパークのPRを行う。
 - イ 鳥取砂丘検定の実施を通じて、鳥取砂丘の魅力をPRする。
 - (5) 山陰海岸ジオパーク推進協議会の取り組み
山陰海岸ジオパークエリア内の府县市町、関係団体が一体となって、ジオパークの保護保全、調査研究、教育啓発、観光活用、情報発信等の事業を行う。
(協議会の主な事業)
 - ・ジオパークの保全活動、学術研究等の推進
 - ・ジオパークフォーラムの開催
 - ・ガイド養成講座、交流会の開催
 - ・モニターツアー、スタンプラリー、写真コンクールの実施
 - ・第5回ジオパーク国際ユネスコ会議におけるPR
 - ・第4回アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムの開催誘致活動
 - (6) 関西広域連合(広域観光・文化振興分野)の取組
広域観光ルートや山陰海岸ジオパークの海外トップセールスを実施する。

3 事業の現状及び課題

- 平成22年10月に世界ジオパークネットワークへの加盟を果たし、県内を中心に認知度の向上が図られ、観光客の入込客数も伸び、教育現場でも活用が図られてきている。
- しかしながら、国内外での認知度は十分とは言えず、引き続きPR活動に努めるとともに、ツアー造成や教育活用等により地域の持続的な発展を目指す。

実績

- 山陰海岸ジオパークに関する様々な取組に対する補助金の交付(19件)
- 女子旅モニターツアー(35名が実施)
前期のレポート: <http://www.tottori-guide.jp/geopark/>
- 県外の旅行会社の現地視察(8社)

○山陰海岸ジオパーク110kmウオークin因幡・但馬の開催(10月13日(土)329名参加)



山陰海岸ジオパーク110kmウオークin因幡・但馬

- 電動アシスト自転車の配置(岩美町内へ15台)
- 外国人対応職員の配置(2名)
- ラッピングバスの運行(4台)
- 鳥取砂丘検定の実施(95名が受験)
- 山陰海岸ジオパーク推進協議会で、ジオパークの保護保全、調査研究、教育啓発、観光活用、情報発信等の事業を実施
- 関西広域連合で、海外トップセールスを実施(8月韓国、9月中国)
- 国内での認知度については、京阪神でのPRキャンペーン時のアンケートによる「山陰海岸ジオパーク」を知っている人の割合が、H23年度の40%からH24年度は51%に上昇

連絡先

生活環境部 緑豊かな自然課 ジオパーク推進室 電話0857-26-7637

参考URL

- 山陰海岸ジオパーク推進協議会のWebサイトより
「山陰海岸ジオパーク」
<http://sanin-geo.jp/>
- 公益社団法人鳥取県観光連盟のWebサイトより
「山陰海岸ジオパーク女子旅ツアー」
<http://www.tottori-guide.jp/geopark/>

平成24年度

- 5 自然がもたらす恩恵を持続的に享受できる健全な自然生態系の確保
5-4 人と自然とのふれあいの確保

10 三徳山の世界遺産登録と国立公園化の推進

施策

1 事業の目的

『三徳山・小鹿溪』一帯の国立公園化による自然環境の保全と地域活性化

2 事業の内容

- (1) 『三徳山・小鹿溪』一帯の大山隠岐国立公園への編入
- (2) 国立公園編入に向けた地域の機運醸成(編入推進協議会の設置・勉強会・シンポジウム・ガイドブック作成)
- (3) 自然環境保全活動の取り組みの展開
- (3) エコツーリズムを通じた誘客体制の展開

3 事業の現状及び課題

(1) 本県の中部に位置する三朝町の「三徳山・小鹿溪」は、特徴ある地形や貴重な動植物が生息することから、昭和29年に三朝東郷湖県立自然公園の一部に指定し、風致景観に係る規制を強化し、県と三朝町が連携して地域の自然環境を保全してきている。

(2) この地域では、以前から世界遺産登録に向けた強い熱意があり、国宝投入堂をはじめとした貴重な建造物群等の歴史的文化遺産のみならず、三徳山・小鹿溪の優れた自然環境の保全に対しても意識が醸成されており、「県立公園から国立公園へ磨きをかけてグレードアップできないか」という想いが高まっている。

(3) 近年、三朝町、各地域協議会など地元関係者が、官民をあげて、植生調査や希少植物の保護活動、広葉樹の植樹活動、一斉清掃活動、ウォーキング大会の開催、ナラ枯れ対策などの景観保持、歴史・文化の研究や講座の開催、各種シンポジウムなど、自然環境の保全に対する様々な分野での取り組みを行っており、「三徳山を世界遺産に」さらには「三徳山を国立公園に」との機運が醸成されつつある。

(4) 平成22年のCOP10(生物多様性条約締結国際会議10回)の成果を踏まえ、国の方針として、生物多様性保全の観点から、全国の国立公園の見直し(区域の拡大)が予定されている。大山隠岐国立公園についても、島根県隠岐地域を含めて既指定区域全域とその周辺を対象に見直しが検討されている。

(5) このような状況は、国立公園編入のまたとないチャンスであり、平成22年度から県・三朝町が国に対して「三徳山・小鹿溪」一帯を大山隠岐国立公園に編入されるよう要望を行っている。

(6) 平成25年度に本県では、「全国植樹祭」、「全国都市緑化フェア」、「エコツーリズム国際大会」、「山陰海岸国立公園指定50周年事業」など、自然や緑をキーワードとした全国的なイベントが予定されており、このような中で、「三徳山・小鹿溪」一帯の自然環境の魅力についても情報発信する絶好のチャンスであり、さらなる国立公園編入への機運の高まりが期待されている。

(7) 「三徳山・小鹿溪」一帯の国立公園編入へ向けた地域の自然環境保全に対する取り組みは、「緑ゆたかな鳥取県」として環境の良さを全国にアピールする県民運動『とっとりグリーンウェイブ』の輪を広げるものである。

(8) 国立公園に編入されるためには、風景地として傑出していることに加え、生態系、地質的に重要であること、大山隠岐国立公園と地理的な連続性、風景の一体性があること及び地元の強い要望があることが必要であり、これらの要件をクリアすべく、関係機関等が連携し、取組を強化していく必要がある。

実績

三徳山・小鹿溪一帯の大山隠岐国立公園への編入については、三朝町主催で編入推進協議会を設立し、県や民間と一体となって気運醸成の取り組みを進めています。
「三徳山」の国立公園編入に向け国に要望を行った結果、環境省は三徳山エリアの植生分布の特殊性、希少性を高く評価しており、大山隠岐国立公園へ編入するために平成25年秋の中央環境審議会諮問に向けて、現在、関係機関への意見聴取と計画内容の精査が行われており順調に進捗しております。
県としても、平成25年7月の国要望の際にも、諮問に向けた要望を行うなど、諮問に向けて環境省と調整を図っているところです。
小鹿溪については、環境省は国立公園としての資質はあると評価していますが、まずは核となる三徳山を編入したうえで、5年毎の公園計画の点検・見直しのタイミングでの検討を示唆しており、環境省に対して関係機関と連携して引き続き働きかけていきます。

連絡先

生活環境部 緑豊かな自然課 電話0857-26-7200

参考URL

平成24年度

- 5 自然がもたらす恩恵を持続的に享受できる健全な自然生態系の確保
5-4 人と自然とのふれあいの確保

11 森林の癒し活用事業

施策

1 事業の目的

森林セラピー、森のようちえんなど、森林の癒しを活用した新たな取り組みを推進する。

2 事業の内容

- (1) 森のようちえん支援事業
森林を幼児の保育のフィールドとして活用することを推進するため、活動に要する経費について助成
事業主体：団体、保育所等
補助額：市町村が負担する額の2/3(スタートアップ型)、1/2(育成型)
- (2) 森林の癒し普及団体育成事業
森林の癒し効果を活用した取組を推進するため、トライアル的な活動に対し支援
事業主体：団体、地域等
補助額：市町村が負担する額の2/3
- (3) 森のようちえん指導者養成研修
森林で幼児の保育活動等を行うノウハウ等を学ぶ研修会を実施
事業主体：県
- (4) 森のようちえん効果研究事業
森林内での活動が幼児の発達に及ぼす効果について研究
委託先：鳥取大学 地域学部
研究期間：平成23年度～25年度
- 森林セラピー研究プロジェクト事業
民間企業、専門家等がメンバーとなり、森林を活用したプログラムを開発
メンバー：民間企業、智頭町、専門家、県
研究期間：平成23年度～25年度

3 事業の現状及び課題

- (1) 森のようちえん
○智頭町、伯耆町で、森のようちえんが活動中。
○平成24年度も各地で取組を検討している施設がある。
- (課題)実施主体により運営経費、移動手段、フィールドの確保など課題があり、各主体に応じたサポートが必要。
- (2) 森林セラピー
○智頭町が森林セラピー基地として平成23年7月にグランドオープン。
○森林セラピーが本格的にスタートし、関西圏を中心とした県外から好評。(グランドオープン数ヶ月で客数2,000人、民泊数200人)
○森林セラピーの企業向けメンタルヘルスプログラムの開発がスタート。
- (課題)森林セラピー基地の受入れ体制のレベルアップ、新たな取組の推進

実績

○森のようちえん

智頭町で通年型森のようちえんが設立され、先進的な事例として多くのマスコミで取り上げられている。

森のようちえんの効果を検証する研究について、途中段階ではあるが成果が発表され、森のようちえんの園児は他と比べて跳躍力や瞬発力が高い傾向がみられた。

また、平成25年4月に伯耆町で県内2カ所目となる森のようちえんがスタートした。



○森林セラピー

智頭町で森林セラピー基地が本格的にスタートし、トップランナーとしての評価もあり、関西圏を中心とした県外者から好評を得ている。

森林セラピー基地グランドオープン1周年記念イベントを実施した。

森林セラピーの企業向けメンタルヘルスプログラムの開発がスタートした。

連絡先

農林水産部 森林づくり推進課 電話0857-26-7304

参考URL

平成24年度

5 自然がもたらす恩恵を持続的に享受できる健全な自然生態系の確保
5-4 人と自然とのふれあいの確保

12 ふれあい集う森の発見事業(森のいろは塾)

施策

1 事業の目的

広く小学生等を対象にして、試験場研究員の日ごろ培った知識及び技術等を活用して森林内での体験学習、木工教室等を実施し、森林・林業の大切さや、木材の良さへの理解を深める。

2 事業の内容

4つの体験型講座(1. 昆虫の世界を探検／2. 森の木々を調べる／3. 木で染めよう／4. 木工品を作ろう)を林業試験場構内、21世紀の森で実施する。



3 事業の現状及び課題

その他
その他

実績

(目的)

広く小学生等を対象にして、試験場研究員の日ごろ培った知識及び技術を活用して森林内での体験学習、木工教室等を実施し、森林・林業の大切さや、木材の良さへの理解を深めて頂く。

(実施概要)

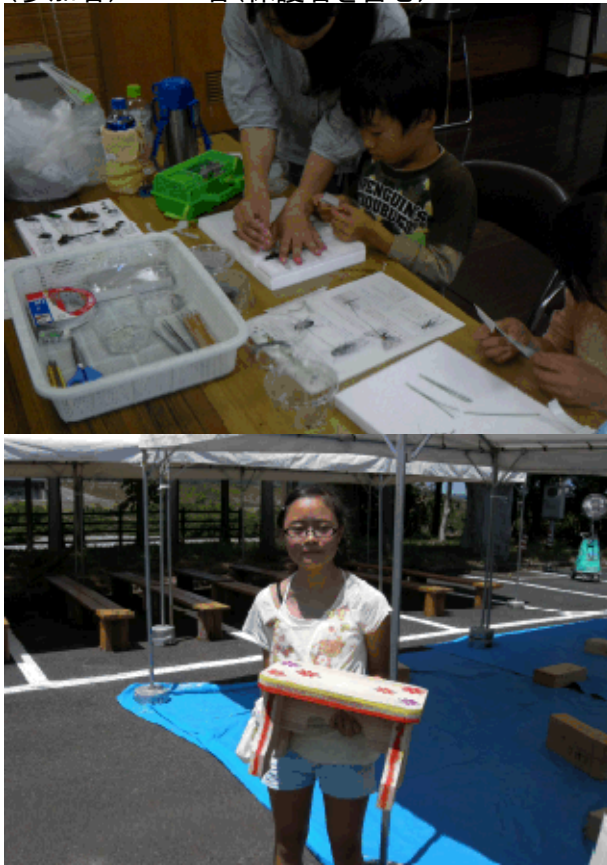
実施日時:平成24年8月4日(土) 午前9時～午後3時

場所:農林総合研究所林業試験場(鳥取市河原町稲常)

内容:

- (1)昆虫の世界を探検しよう
- (2)森の木々を調べてみよう
- (3)木で染めてみよう
- (4)木工品を作ろう

(参加者) 133名(保護者を含む)



連絡先

農林水産部 農林総合研究所 林業試験場 森林管理研究室 電話0858-85-2511

参考URL

農林総合研究所林業試験場のwebサイトより

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=70824>

平成24年度

- 5 自然がもたらす恩恵を持続的に享受できる健全な自然生態系の確保
5-4 人と自然とのふれあいの確保

13 エコツーリズム国際大会2013in鳥取準備事業

施策

1 事業の目的

2013(平成25年)に、国内外のエコツーリズムに関する有識者が一堂に会する「エコツーリズム国際大会2013in鳥取」の開催が決定したことから、大会開催に向けて実行委員会の取組を支援するとともに、エコツーリズムのメッカとしての地域づくりを進めていく。

2 事業の内容

(1) 実行委員会の取組支援・・・国際大会開催に向けて実行委員会が行う次の取組に要する経費の一部を助成。

- エコツーリズム人材育成(ガイド養成講習会開催経費等)
- エコツアープログラム商品造成(プログラム造成経費、モニター旅行実施経費等)
- エコツーリズム普及啓発・情報発信(新聞連載経費、ホームページの外国語化経費等)

(2) 国内外への広報宣伝の強化・・・大規模な国際会議の場等を活用するなどして、本県がエコツーリズム国際大会の開催地であることを、当地の魅力とともに国内外へ広く情報発信する。

- 大規模なキャンペーンの場等を活用しての広報宣伝
- 世界旅行博覧会2012でのエコツアー商品のPR

(3) 実行委員会事務局運営に必要な国際リゾート推進コーディネーター(1人)の配置(緊急雇用創出事業)


3 事業の現状及び課題


- ・2013年のエコツーリズム国際大会の開催が決定し、「エコツーリズムのメッカ」としての地域づくりを進めていく第一歩を踏み出した。
- ・「エコツーリズム国際大会準備委員会」が8月に立ち上がり、地元市町村や経済界にもエコツーリズム推進の気運が高まり協働連携が生まれてきた。
- ・大会開催に向けた地元の環境整備(エコツアープログラム商品造成、ガイド養成、普及啓発、情報発信など)、当大会への参加意欲を高める効果的な情報発信が、今後の課題。

実績

平成24年度事業報告書

- ① **推進事務局の設置・運営**
 - 1. 地域コーディネーター・事務補助の配置
 - 2. 実行委員会事務所の設置
- ② **人材育成**
 - 1. エコツアーガイド養成研修会の開催
 - 2. エコツアーガイド養成講習会への派遣
 - 3. 一般住民向けの人材育成研修の開催
- ③ **エコツアープログラムの造成・プロモーション**
 - 1. エコツアープログラムの造成
 - 2. プログラムパンフ等の作成
 - 3. 国内外の商談会・展示会への出展
- ④ **普及啓発・情報発信**
 - 1. エコツアープログラム体験会の実施
 - 2. エコツーリズム専用ホームページの英語化
 - 3. エコツーリズム情報の定期配信

事業計画	取組状況
①	地域コーディネーター等の配置 ◎次の者をそれぞれ配置し、地域コーディネーターが中心となって事務局会議の開催、プログラム造成、情報発信等の取組を実施している。 【地域コーディネーター】石村隆男氏 【事務補助】細田真知子氏 ◎以下の会議等を開催 【実行委員会】第1回開催（H24.8.22）（第2回開催（H25.5.1）） 【幹事会】第1回開催（H24.10.10）、第2回開催（H24.12.5）、 第3回開催（H25.3.1） 【事務局会議】週1回開催（毎週火曜日）
	実行委員会事務所の開設 ◎「中海テレビセンタービル3F」に事務所を開設した。 【住所】〒683-0823 鳥取県米子市角盤町1-55-2 中海テレビセンタービル3F 【入居期間】H24.6.1～H25.3.31 ※25.4.1～、鳥取県西部総合事務所内に移転
②	エコツアーガイド養成研修会の開催 ◎「エコツアーガイド養成講習会」の開催（座学+実地(スノーシュー)） 【期日】H25.1.29(火)～31(木) 【場所】大山町役場及び大山 【申込】31人 【講師】松本毅氏（(有)屋久島野外活動総合センター代表） 山田桂一郎氏（JTIC、SWISS 代表） 松田光輝氏（(株)知床ネイチャーオフィス代表） 楠部真也氏（(株)ピッキオ 取締役）ほか ※研修修了者にはJESから「修了証」を交付 ◎「エコツーリズムセミナー」の開催（H25.3.12） 【講師】高梨洋一郎氏、石村隆男氏
	ガイド養成講習会への派遣 ◎モンベル主催「ジュニアカヤックインストラクター講習会」への派遣（1人）
	一般住民向けの人材育成研修の開催 ◎鳥取、岡山経済同友会合同例会でエコツーリズム国際大会、大山エリアの観光取り組みについて講演（H24.11.13）：約50人 ◎名峰景観ツーリズム・シンポジウム実行委員会主催「大山一周ロングトレイル・フォーラム」でエコツーリズム国際大会について講演（H24.11.16）：約40人
	

事業計画	取 組 状 況				
③ エコツアープログラムの造成	◎県西部管内市町村等への委託により8つのエコツアープログラムを開発した。				
		ツアー名称	受託者	ツアー内容	市町村
	1	桐原さんと歩くネイチャーガイドウォーク	もりまきフィールドネットワーク	南部町に生息する生き物を観察、採捕するガイドツアー。(ブッポウソウ・ザリガニ・ハンザキ赤ちゃんなど)	南部町
	2	シーサイドネイチャーウォキング&ウォッチング	皆生レクリエーションカヌー協会	国引き神話の聖地・弓ヶ浜半島の海岸を歩くウォーキングツアー。波の音をバックミュージックに海辺を歩く	米子市、境港市、日吉津村、大山町
	3	大山の水を旅する	伯耆町観光協会	伯耆町丸山、地藏滝の泉とその湧水地を探訪し、源である大山ブナ林を散策し、大山の水を学ぶ。	伯耆町
	4	酒造り探訪ツアー	有限会社大岩酒造本店	秀峰大山の湧水と日野郡内の酒米を使って生産されている、日野郡内唯一の酒蔵を見学するツアー。季節限定。	江府町
	5	自然薯掘り体験ツアー	株式会社コーセン	自然薯掘りを通じて、①笠良原の開墾の歴史、②ワイルドな自然体験、③燻製作りなどを学習・体験するツアー。	江府町
	6	大和撫子計画～なでしこに変身・着物と傘体験～	おもてなし研究会	大正時代の米子下町のように、着物を着て街並みを散策するツアー。→着物、和傘、蔵、お茶、老舗など。	米子市
	7	古民家体験宿泊とそば打ち体験	奥日野ガイド倶楽部	奥日野の古民家で懐かしい風情を味わい、囲炉裏を囲んで語らいながら、静かな夜を過ごすツアー。	日野町
	8	オシドリ観察と朝食会	奥日野ガイド倶楽部	冬の早朝、日野川に飛来するオシドリを観察した後、郷土色豊かな珍味と日野米のお粥で心身を暖めるツアー。	日野町
◎韓国人をターゲットにした以下のツアー商品の造成を行った。					
【西部周遊バスツアー】大山の四季のワンダースポットを巡る旅 実施中(毎週金曜日)					
(1～3月のコース)					
妻木晩田遺跡→豪円山ロッジ(昼食)					
→スノーシュー体験(ALLワタル)→寿城					
(料金)4,000円/人					
【ゴルフツアー】売り込み中					
					

	<p>エコツアーリズム専用ホームページの英語化</p>	<p>◎エコツアー全般を紹介するホームページ「DAISEN WONDER」と、自転車に特化した「コグステーション」のホームページを開発し、英語化を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>「DAISEN WONDER」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「コグステーション」</p> </div> </div>
<p>④</p> <p>エコツアーリズム情報の定期配信</p>		<p>◎様々な媒体を活用して定期的に情報発信を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティFM「ダラズFM」での放送（H24.10～） <ul style="list-style-type: none"> 【週1回番組】「音楽から感じるエコツアーリズム」（毎週金曜日／9分） 【月1回番組】「エコツアーカフェ」（第4土曜日／28分） ・とっとり県政だより 10月号及び1月号への掲載 ・鳥取県広報誌「とっとりNOW」の取材対応（10.18）。記事掲載はH25.6月発行予定。 ・中海テレビ「野坂市長を囲んでまちづくりー観光拠点としての魅力向上ー」でのPR（H24.10.19） ・毎日新聞「大山「彩」発見」への記事掲載（H24.11.8） ・山陰放送ラジオ「来年にかける」特別番組での大会PR（H24.12.29） ・JES季刊誌ECOツアーリズム最新号（通巻58号）に平井知事インタビューを掲載。 <div style="text-align: center;">  <p>※JES季刊誌 （平井知事インタビュー）</p> </div>
<p>その他</p>		<p>◎「大会シンボルマーク」の完成  Webやアプリなどが学べるクリエイター育成のラーニングスタジオ「デジタルハリウッドSTUDIO米子」の受講生との協同により制作。</p> <p>◎とっとりグリーンウェイブ3兄弟揃い！ 鳥取県西部総合事務所に「懸垂幕」を掲示。 （H25.3.1）</p> <div style="text-align: center;">  </div>

連絡先

西部総合事務所 地域振興局 西部広域観光課 (電話)0859-31-9647

参考URL

西部総合事務所県民局大山中海観光課HP
<http://www.pref.tottori.lg.jp/176260.htm>

大山・皆生ツアーガイドHP
<http://web.sanin.jp/p/eco/5/1/>

平成24年度

- 5 自然がもたらす恩恵を持続的に享受できる健全な自然生態系の確保
5-4 人と自然とのふれあいの確保

14 ニューツーリズムの推進

施策

1 事業の目的

近年、消費者からのニーズが高まっている「ニューツーリズム」に対応するため、地域資源の観光メニュー化や磨き上げ、情報発信を行う団体を支援する。

2 事業の内容

(1)メニュー造成、受地整備支援補助金 7,500千円

事業内容	ニューツーリズムに関する体験型観光メニューの造成や情報発信などの受け地整備を目的とした事業に対する補助
補助額	1/2(上限500千円)
補助対象事業者	ニューツーリズムに関するメニュー造成や情報発信に取り組む団体、市町村
補助対象経費	体験に必要な器材や消耗品等の購入経費、オリジナルグッズ試作に必要なデザイン経費、消耗品等の購入費、ホームページ制作費、プロモーション経費、事務費など
補助対象となる取り組みの具体例	○自然、農林漁業体験メニューの整備 ○スポーツや文化体験メニューの整備 ○古事記に関する観光メニューの造成 ○情報発信体制の整備 など

(2)教育旅行に関する旅行会社への売り込み強化 2,000千円

事業内容	県外の旅行会社や教育旅行関係者への情報発信、売り込みを強化する。
所要経費	2,000千円(鳥取県観光連盟に委託)
取り組みの具体例	旅行会社を対象とした視察旅行の開催やバス代助成など

3 事業の現状及び課題

- 近年、従来の物見遊山的な観光旅行とは異なり、テーマ性が強く、人や自然とのふれあいなど体験的要素を取り入れた「ニューツーリズム」に対するニーズが高まっている。
- 教育現場においても体験型教育旅行が広く取り入れられており、新しいニーズに対応する観光メニューの造成や磨き上げ、情報発信を積極的に進めることが必要。

実績

(1)メニュー造成、受地整備支援補助金については、県内の14団体へ補助金交付を行った。

<補助金活用の具体例(主なもの)>

- ・「杉アロマ」体験メニューのガイド養成
- ・民泊受入機能強化に向けたモニターツアーの実施
- ・冬期の森林セラピー導入に向けた必要器材の導入、メニュー磨き上げ
- ・クリアカヌー導入による体験メニュー造成

(2)教育旅行に関する旅行会社への売り込み強化については、鳥取県観光連盟が研修会及び情報交換会を開催し、県内関係団体の体制整備や関西の旅行会社等を対象とした現地研修会を行った。

連絡先

文化観光局 観光政策課 受入環境整備担当 電話:0857-26-7421

参考URL